

文章題テスト・説明／論説(3)

月 日
名 前

★ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(①～⑤は段落の番号です。)

① 強い日光に耐えられるように「黒い眼」ができたことからわかるように、日本は太陽がいっぱいの国です。日ざしをさえぎる構造になっている日本家屋は、暑さに悩まされてきた私たちの先祖が、長い歴史の中で、考えに考えてつくり上げたものです。2
住まいの伝統を無視して、鉛色の空の国の住宅にあこがれるのは、まちがっています。どこの国の住宅も、それぞれの風土の中から生まれてきたものだからです。

② 箱型高層のオフィス・ビルは、日当たりという点では百点です。しかし、直射日光をもろにあびる部屋の夏の暑さは、二重ガラスにしても、カーテンをひいても、ブラインドをおろしても防げません。クーラーもききません。住宅でもそれは同じです。

③ 一般的にあって、鉄筋コンクリートの建物は、夏の直射日光をあびると、外壁の温度が四十五度以上になります。屋上は六〇度ちかく、その熱が伝わってくる室内の壁面は三〇度。コンクリートは熱をたくわえる性質をもっているため、クーラーをとめると、とたんに暑くなってきました。クーラーをつけっぱなしにしても、壁の内部まで温度を下げることはできません。

④ そして翌日。建物が冷えきらないうちに日がのぼり、真夏の太陽がまた一日中建物を熱しつづけます。そういうことがくり返される上、クーラーの排熱が加わるので、夏の都会は、熱のかたまりのようなヒート・アイランドになります。

⑤ なお悪いことに、クーラーは、暑さの悪循環をひきおこします。排熱のため、家の外では気温が上がります。そのために、クーラーなしではくらしえない家がふえてゆく。すると、ますます気温が上がリ、クーラーの数もふえつづける。その電気をつくるための石油などの燃料が燃やされ、地球温暖化が進行する、ということになるからです。

(河津 千代「知っていますか 日本の自然と木の文化」より)



1 線1「太陽がいつぱいの国」と反対の意味で用いられている言葉を、文中から六字で書きぬきなさい。

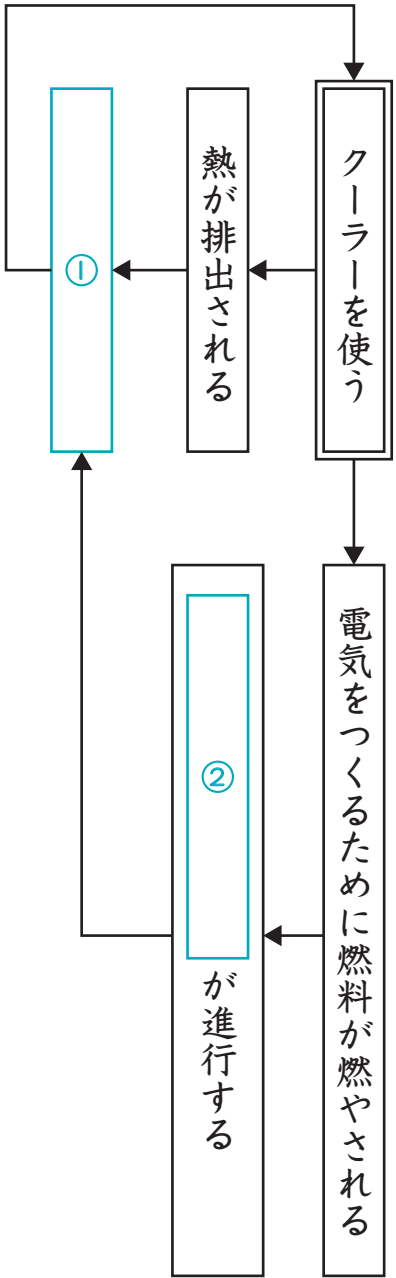
2 線2「そういう住まいの伝統」について次のように説明するとき、に当てはまる言葉を、文中から十字で書きぬきなさい。

日本人は、長年、夏の暑さをさけるために
の
家屋を住まいとしてきたということ。

3 2〜4段落の要点を次のようにまとめるとき、に当てはまる言葉を、九字で書きぬきなさい。

夏の都会は、建物の熱やクーラーの排熱などで
になる。

4 線3「暑さの悪循環」を次のようにまとめるとき、、に当てはまる表現を、
①は十字以内で書き、②は文中から五字で書きぬきなさい。



①

②

5 この文章で筆者が最も述べたかったことがまとめられている段落の番号を書きなさい。

--

段落

